

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス暖母多の津Ⅱ		
○保護者評価実施期間	R 8年 2月15日		～ R 8年 3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	R 8年 3月 1日		～ R 8年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	R 8年 3月 1日		～ R 8年 3月 24日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	13校	(回答者数) 12校
○事業者向け自己評価表作成日	R 8年 3月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校、それぞれのクラス担任の方針を理解し、クラス運営を尊重しながらインクルーシブの観点でイメージを共有し、直接支援を行っている。	学年始めには、校長先生や教頭先生、担任の先生に訪問の役割や児童の目的を詳しく説明しご挨拶を行う。そのうえで同意書をいただく。	学校現場でのそれぞれの役割が明確になるよう話し合い保護者にも共有する。
2	間接的支援では、訪問時間内関係なく、学校にも保護者にも適切な情報を提供し、見通しの持ち方やわかり方など支援を行っている。	質問があった場合など、支援方法の具体的なものを視覚的に準備し再度お伝えしている。 必要な場合には、家庭連携で兄弟児童にもわかりやすく、家庭での関わりを伝えるなどの役割を担う。	ICFの理解やインクルーシブの観点での情報を取り入れた計画や関わり、優先順位をスタッフで共有する
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校、クラス担任の方針の情報不足。	特性や環境にあった合理的環境調整の方法スキル	各研修の参加とカンファレンスの積み重ね 役割分担
2	コミュニケーション力の向上 関係者それぞれのニーズを理解したコミュニケーション。	コミュニケーションスキルの向上	訪問員の困り感の共有とカンファレンスによる解決策と連携
3	ICFの観点での観察。 個人因子・環境因子のアセスメント 社会参加のための必要な支援のアセスメント	アセスメント力(ICFの視点)の向上	各研修の参加とカンファレンスの積み重ね 役割分担